

平成24年9月 第315号  
大代地区コミュニティ推進協議会  
( 広 報 部 )  
事務局：大代地区公民館  
TEL 022-364-8442

# ふれあい

## 掲 載 目 次

- 公民館の再開を記念して..... 1
- 季節..... 2
- けして、風化させない..... 2
- 柏木遺跡での昔遊びを終わって..... 3
- 豊齢者に対する交通安全教室のお知らせ..... 4
- 大代の歩み(五十)..... 4
- ふれあい短歌..... 4

大代地区の世帯数(平成24年7月31日現在)：東区340、中区309、西区281、北区118、南区576、合計1,624

### 公民館の再開を記念して

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

昨年3月11日の大震災から、15ヶ月が経ちましたが、地域の方々にとっては、悪夢の出来事として心の中に残っており、また周りの光景も空き家や空き地が目立ちその時のことが思い出されます。

大代地区公民館も震災による津波の影響で使用不能となり、各教室やサークル活動また地域の集まりなどにも使用することができず、不便を余儀なくされておりました。そして、ようやく7月末に改修、復旧工事が完了し、8月から使用できるようになりました。

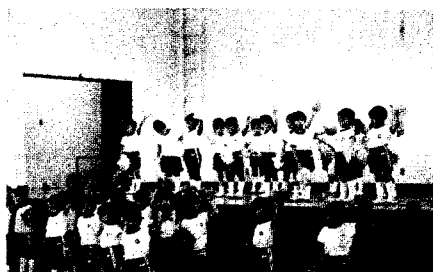
そこで、地域として公民館の再開をできるだけ多くの方々に祝って頂きたく、8月5日に開館記念セレモニーを開催致しました。開催時間は10時から12時までと短い時間ではありましたが、東豊中学校、柏幼稚園、暁流仙台南支部による舞台出演や地域の方々による作品展示、また自衛隊多賀城駐屯地から震災時のパネルをお借りして展示し、多くの方々に見て頂きました。入場者数は、概ね300人程で賑やかに開催でき大変嬉しく思いました。皆様方のご協力誠にありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

また、8月2日には、岐阜県が主催する震災復興イベント「とうほくこよみのよぶね」に協力し、岐阜県との交流の一端を担い「絆」を深めることができました。見物客も7、800人は居たようですし、

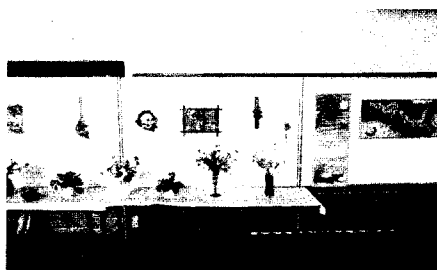
大盛況だったと思います。船の製作やステージでの催しものなどにご協力頂いた皆様大変ありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。  
今後とも、地域の方々とより一層のコミュニケーションを図り、住みよいまちづくりを目指して参りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



東豊中学校吹奏楽部による多彩な演奏



柏幼稚園の年長園児による遊戯



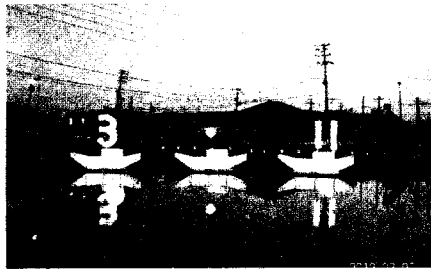
力作揃いの作品を体育室の周りに展示



暁流の方々による開館を祝う舞



岐阜県の方と一緒に船の組み立て



貞山運河に浮かぶ3・11の船



市長と日比野克彦さんとのトークショー



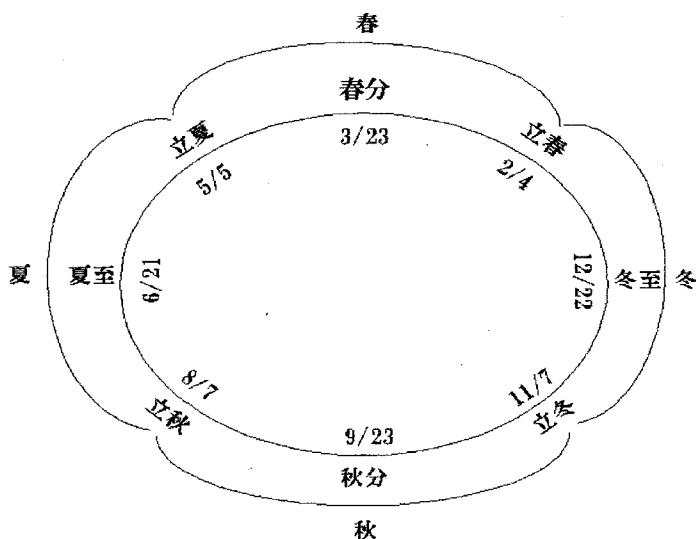
抽選会は大変な人集りで賑わった

## 季節

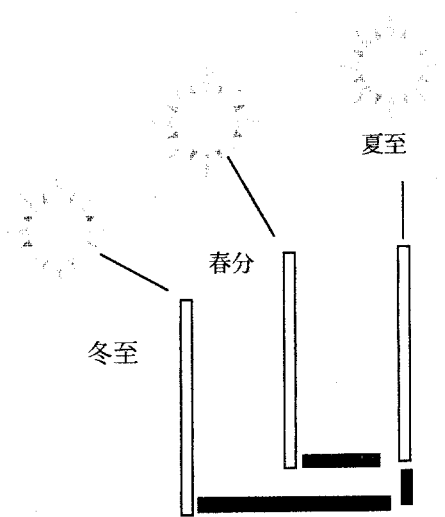
大代北区長 加藤 渉

昼夜の長短を基準にした季節区分(各季節の中間点、春分・夏至・秋分・冬至、その間に、立春、立夏、立秋、立冬がある。日照時間が一番長いときと一番短いときとを比べると、日照時間が一番長いときと一番短いときとを比べると、日照時間を比べてみよう。夏至の日の出、4時25分、日没19時1分、一番短いときとされている冬至の日の出、6時46分、

日没16時33分、日照時間差が5時間近くある。東北での夏至の昼の長さは、14時間31分、冬至の昼の長さは、9時間26分、冬至の日没から翌日の日の出まで寝ると、夏至の夜の2日間寝ることになる。だが、徳をした気持ちになれない。寝徳、聞いたことがない。



左の図は、春夏秋冬を区切って見た。立秋、秋になつたと言うのに、厳しい暑さの頂点になるのがこのあたり、太陽が一番高い高度(真上)にあるから日影が出にくい、地表の照射面積も最大になる。



季節の言葉も、残暑厳しくや残暑の候、暑さが残っている状態を表す言葉だ。暑気払いもこの季節にやる飲み会。あまり効果は無い。また土用(8月6日)ウナギを食べる。焼きがけを食べると、汗がにじみ出てくる。汗には、ウナギのぬめりが混じり足取りも滑りやすくなる。(嘘)

間もなく秋分、ここまで来ると。お湯割りや熱燗がビールとの分かれ目を作る季節。一息つける状態になる。ガンバロウ、猛チヨイで涼しくなる。

## けして、風化させない

大代南区 竹山 兵記

7月18日、大代地区婦人防火クラブの皆さん38名とともに、JX日鉱日石エネルギー株式会社の構内見学会に参加させて頂きました。公民館からバスで移動後、製油所内会議室では、仙台製油所の概要について次のような説明がありました。

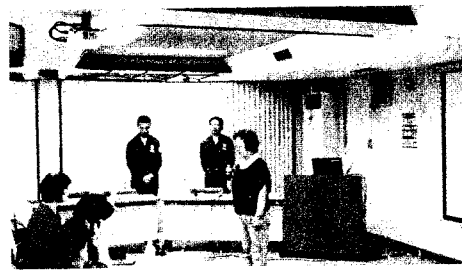
- 一 地震発生から津波襲来
- 二 火災発生と対応
- 三 緊急出荷
- 四 被害状況と復旧・復興
- 五 津波対策
- 六 今後の予定

地震後、LPGタンク付近で火災が発生し、爆発・炎上による損傷を受けたことにより、震災から現在まで、再生を目指す取り組みについて詳しい説明がありました。また地区に関する質疑応答についても丁寧な回答を頂きました。その後バスで構内見学を行い、被災状況、復興状況、安全対策等の新たな取り組みについて説明を頂きました。

先月8月号に掲載された藤原さんから学ぶように、自分の命を守るために何をやればいいのか・・・『我生活環境を知る』の記事を見て、私も大変共感しました。東日本大震災の最大の教訓は、自分の身は自分で守ることだと考えます（自助）。そして、向こう三軒両隣の精神を持ち、自分の日常における取り組み、コミュニティの防災力向上に努め、前進することが大切であると感じます（共助）。決して風化させないことです。

JX日鉱日石エネルギーに期待することは、他の会社とライバル関係にある仕事もあるとは思いますが、今回の大震災の教訓を活かし、問題解決に向けてお互いに連携し、協力を惜しまず知恵を出し合い安全管理対策を整え、前進して頂きたいと思えます。決して風化させず、福島原発で被害を受けたような再起不能な街にならないように願っています。

地域の安心・安全なくして復興はあり得ません。最後に、構内棧橋で危険を顧みずに原油タンカー緊急離棧作業を継続し、津波の犠牲になられた4名の方々にご遺族に対し、心からお悔やみ申し上げます。



開始にあたり後藤婦人防火クラブ 会長が挨拶



熱心に説明を受ける参加者の皆さん

### 柏木遺跡での昔遊びを終わって

遺跡を愛する会会員

大代東区 佐藤捷逸

去る7月29日、小学校が夏休みに入って1週目の日曜日、柏木遺跡において昔遊び、大代地区遺跡勉強会を実施致しました。参加者は子供達37人含む67人と多くの皆様にご協力を頂き無事終了することが出来ました。本当にありがとうございました。暑い中での行事であり、不安もありましたが、大代5区子供会は、いつもならこの時期になると、キャンプをしていたと思います。それが昨年からできなくなつたと聞き、この時期に実施することにし

した。そして大代地区の子供さん達が一つになって遊べる楽しみ、体験そして思い出に残るものを主体に考えてみました。場所については、柏木遺跡は子供の時から知っていると言えようようにしたいと考えここに設定しました。昔遊びについては、メンコ、あやとり、こま、お手玉、けん玉などで遊びましたが、いずれも語り合の遊びですので楽しかったようです。昔遊びの先生となって頂いた方々は、東小学校の学習サポートに登録されている方々が殆どでしたが、それぞれの遊びを工夫して下さいまして、より面白くなり、なかなかやめられなかった子供さんもいました。この後、昔のおやつ（昔遊びに相当したおやつ）が出ましたが、（ふかしたサツマイモ）これは珍しかったのか、美味しかったのか、食べ残しは1本もありませんでした。計画した側では、もしかして食べかけの芋が出るかもしれないと大きなゴミ袋を用意しましたが、1本も食べ残しはありませんでした。

ある新聞にこんな記事が載っていたことを思い出しました。それは、若い人に生まれてもない時代の映画を見てもらい、感想を聞いたところ懐かしさがある。温かみがある。と答えが返ってきたそうです。この言葉を終戦記念日に重ね合わせるなら、戦後食べものがなかつた時代、芋が主食だったことを知らせる遺伝子が組み込まれているのでは？と勝手な想像をしましたが、本当は常日頃食べたことのない野外で、お母さんやお父さんと食べたふかし芋、本当に美味しかったのかも知れませんね。その後、子供会から昼食のおにぎりを頂きプレゼント

の中で、皆で美味しく頂きました。少しの時間でしたが、キャンプ気分を味わえたことと思います。

15名の子供会父兄の方、役員の方、本当にありがとうございました。子供さんにとって楽しい夏休みの思い出ができたことと思います。また昔の遊びを指導して下さいました地域のの方々、遺跡会員の方々、大きく広がる子供の遊びの環、思い出の環に入って頂き、会員の一人として心から感謝します。ありがとうございました。



あやとり、なかなか難しいけど面白い



紐をしっかり巻いてから、こま回し

## 豊齢者に対する交通安全教室の

### お知らせ

交通安全協会多賀城市東部支部

支部長 伊藤 勇

9月21日～30日まで、全国一斉に秋の交通安全運動が行われます。事故の傾向として特に高齢者による交通事故が多く発生しております。

交通安全協会東部支部では、高齢者の交通事故を

減少させるため、左記により交通安全教室を開催致します。大代地区第一、第二百寿会の方はもとより、ご高齢の方々の多くの参加をお願致します。

記

日時 9月27日(木) 午後2時から

場所 大代地区公民館 2階会議室

講師 塩釜警察署大代駐在所所長 武田 一貴

さんによる講話

多賀城市交通安全指導隊女性部による寸劇

## 大代の歩み(五十)

大代南区 渡邊 巖

さて此の様な工事進捗状況の下、沿線の利用者が待ち焦がれた『宮電』多賀城駅は、仙台～西塩釜駅間15kmが開通した大正一四年六月五日に新築落成し、営業を再開した。因みに当時の運賃は多賀城～仙台間(片道)二五銭、多賀城～西塩釜駅間は七銭であった。

さて、開業したものの多賀城駅に於ける旅客と貨物の取り扱い量は、年により変動が大きく極めて不安定であった。これは、都市間の人的結合が希薄な多賀城村の地域的特性(前述)と、当時の経済社会の状況がそのまま反映されたものかも知れない。

ともあれ多賀城村に於ける宮電(多賀城駅)の開通が当村に与えた影響は実に多大なものである。特に仙台との都市間交通を新設したことは、そののち当村の住民に対して駅と居住地区の遠近に係わらず客観的経済の発展を促し、通勤・通学の便を与え

る効果は大であったと云えよう。しかし、昭和初期の平和は東の間のものだった。

やがて昭和六(一九三二)年に勃発した満州事変に続く上海事変、満州国の成立と国際連盟脱退を経て東洋の風雲は急を告げ、国内では二・二六事件など数々の政治事件が発生して社会情勢はますます戦時色を濃くして行ったが、遂に昭和一二(一九三七)年、後に太平洋戦争の発端となった『日支事変』を惹起した。

『宮電』も当然ながら戦時体制下の輸送力増強に組み込まれ、更に時局の要請から『宮電』沿線の苦竹に陸軍造兵廠、多賀城に海軍工廠、更に矢本に海軍松島飛行場が立地された。日々苛烈さを増す戦局の下、『宮電』も旅客輸送の他に軍需輸送の責務を負う事となり、昭和一九年五月一日に国鉄(現JR)に移管され、また東北本線の陸前山王駅付近と海軍工廠間を結ぶ路線が新設された(その一部が現在の臨海線)。

続く

## ふれあい短歌(こよみのよぶね)

大代西区 藤田 遊子

鎮魂の貞山運河に船出しし

〈こよみのよぶね〉八月二日

荒城の月の歌声ひびきたて

〈こよみのよぶね〉運河を滑る

被災しし貞山運河は甦り

〈こよみのよぶね〉に魚影は群るる